

# バングラデシュ国の幹線道路整備プロジェクト

## プロジェクトの背景

バングラデシュ人民共和国は、日本の約4割の国土に約1.72億人が暮らす人口過密国です。同国のGDPは着実に成長し、2026年には、後発開発途上国 (Least Developed Country) から卒業する予定ですが、経済成長に伴い、強靱なインフラの整備が重要な課題となっています。

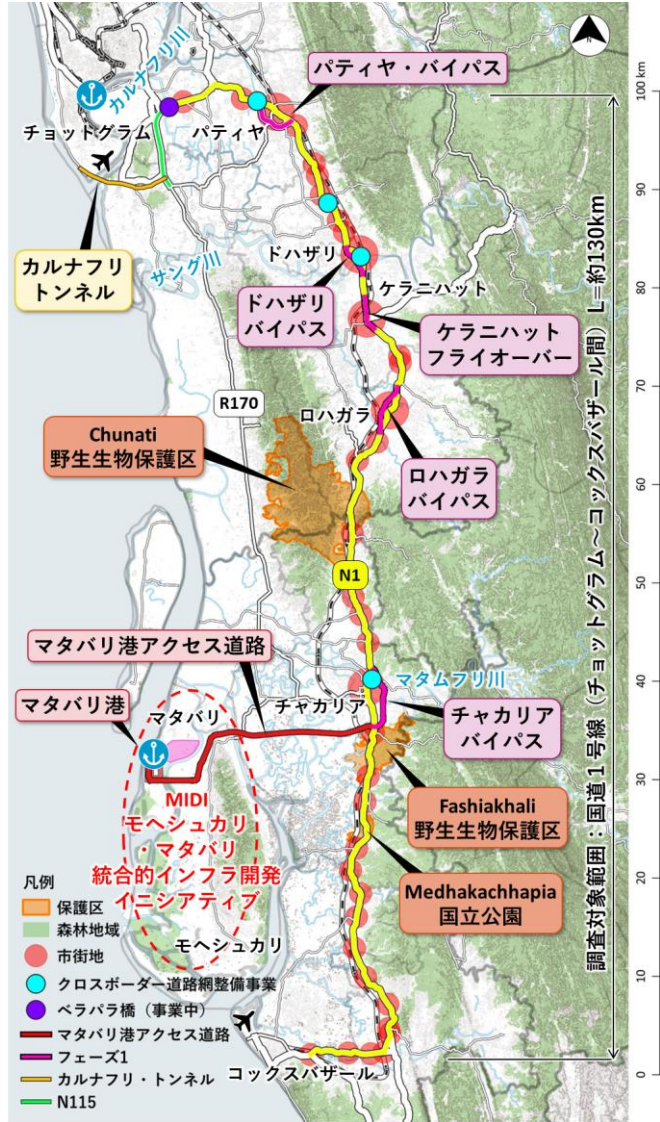
バングラデシュでは、全ての交通モードの中で道路セクターが、旅客輸送の7割、貨物輸送の6割を占めており、道路交通が重要な移動・輸送手段となっています。

事業対象道路である国道1号線 (N1) は、首都ダッカ、チョットグラム、コックスバザールを結ぶ、同国で最も重要な幹線道路です。ダッカ～チョットグラム間は整備が進んでいますが、チョットグラム以南は片側1車線で、追い越しや無秩序な駐停車による交通混雑が深刻であり、さらに、この区間にはマタバリ港が建設される予定であるため、交通問題が解決されない場合、内陸輸送の停滞が懸念されています。

このような状況下、バングラデシュ政府は、我が国に対して、円借款事業として本道路の整備実施を要請しました。

本調査 (フィージビリティスタディ) では、N1の各区間に対して整備方針 (4車線拡幅、バイパス、フライオーバーの建設、等) を決定し、概略設計や積算を実施するとともに、経済分析により本調査の実現可能性 (フィージビリティ) を確認するものです。

なお、N1沿線には多くの市街地や野生生物保護区が存在し、環境社会配慮への対応も重要な調査項目となっています。



図：調査対象エリア

## 調査概要

本調査は、バングラデシュの国道1号線チョットグラム – コックスバザール区間において、優先度の高い区間を選定し、選定された区間について、道路・橋梁の概略設計等を行うものです。

なお、調査対象道路は、以下に示すような課題を抱えています。



本調査では、主に以下の項目について調査を実施します。

- 交通需要予測
- 道路整備方針の決定、道路概略設計
- 架橋位置選定、橋種選定、橋梁概略設計
- 施工計画・積算
- 経済分析
- 環境社会配慮

## インターンシップ研修内容

インターンシップでは、以下のタスクに携わることを想定しています。

- 1) 道路設計補助
- 2) 橋梁設計補助
- 3) レポート作成補助

## 対象者

土木系を専攻する学部3年もしくは修士1年

## 実施期間

7月下旬から9月までの1週間から2週間程度（応相談）

## 募集人数

1名